

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600275		
法人名	有限会社 森		
事業所名	グループホームいこいの森		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1811番地		
自己評価作成日	令和3年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年3月25日	外部評価確定日	令和3年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・入居者様のできる事を最大限に引き出せるように日々気を付けて支援しています。・1階にかかりつけ医があり、急変時はもちろん普段から入居者様の状態を把握していただくことが出来、医療面で安心して過ごしていただく事が出来ています。ご家族様の希望に合わせて、看取りの介護までさせて頂き、本年度は1名看取りを行いました。・3階に認知症のデイサービスを併設しており、通常時は交流等を行い、顔なじみの関係が継続出来るように努めています。また、入居の際もスムーズな入居ができるように支援しています。・施設内の掲示物に力を入れており、季節感を味わってもらえるようにしている。今年度は壁面だけでなく、窓等にも掲示壁面を行い、近隣の方にも外から見て楽しんでいただけるようにしています。・職員に言語聴覚士を配置し、食事の形態の相談はもちろん、認知症の方の発語困難な方に対する個別の訓練を取り入れ、現在他職員も訓練のやり方など勉強しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>1階にある母体の医療機関は、地域の病院として住民に親しまれ、施設は2階に位置している。医療との連携ができ、緊急時の対応や看取り介護においても大きな力となり、利用者や家族の安心感につながっている。また、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策で計画通りの実施はできなかったが、運営推進会議を通し、地区の住民の参加、消防団などの協力を得て夜間の防災訓練も実現出来ている。代表者は人材育成にも力をいれ、希望があれば資格取得や研修には勤務で参加させている。利用者や家族は職員の笑顔とゆとりある介護で落ち着いた生活ができており、常に質の高いサービスや支援が行われている事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ありのままの利用者を受け入れ、いつまでも地域や家族の一員として利用者が暮らし続けられるような支援を行うことを目指している。全職員が常にその理念を共有し実践できるようにリビングや玄関などに掲示をしている。カンファレンス時にも確認をしている。	住み慣れた地域との関わりを踏まえての理念はリビングや玄関に掲示されている。利用者のあるがままを受け入れ、地域での暮らしを支援することを大切にし、職員全員が共有し実践につなげている。また施設長の想いと適切な助言が大きな役割を果たしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や防災訓練等では多数の地域住民や知見者の方に協力をいただいている。新型コロナウイルスの影響でこの1年はほとんど外部とのかかわりはないが、外出可能な利用者は近隣を散歩されている。通常であれば、地域のお祭りを見学したり、地域の方を雑の会にお呼びし、施設の中を知ってもらえるように交流をしている。	事業所は地域活動や住民との関わりを積極的に行っている。地域からの要請には快く応じ、自主的に地域に出かけての交流もある。今年度はコロナ禍で実現できなかったが、職員の地域敬老会への参加、文化祭への出品、老人会の催しなど地域との付き合いを積極的に行っている。地域の方や入居者の家族からは、沢山の野菜の差し入れが多くあり、入居者は職員と一緒に野菜の分別をし、楽しみながら調理に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や敬老会、町のシンポジウム等で、区長、老人会長、民生委員、家族、その他多くの地域住民の方に、認知症や認知症介護についての助言やアドバイスを行っている。要請があれば、認知症サポーター養成講座に出向いたり、実習生の受け入れを行っている。認知症GH協会の活動にも力を入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月に開催し、毎月の活動状況や利用者の様子などを報告している。メンバーは別紙の通りで、不定期の方もあるが毎回多数の方に参加いただき、活発な意見交換や情報交換が行われている。今年度はコロナウイルスの影響で、対面で実施したのは1回である。他はすべて文書にて報告を行った。通常は、ご家族様に沢山参加して頂けるように家族会等と合わせた開催も行っている。	地域の理解と支援を得るための有意義な機会であり、メンバーは利用者家族他区長、老人会長、消防団員、交番警察官。市議員、県議員など11名の参加がある。事業所での具体的な諸報告後の意見交換、区長からのお願い、避難訓練の反省、行政からの情報、その他様々で情報交換も活発に行われ運営推進会議の意義が活かされている。今年度コロナ禍で年間計画通りには開催ができなかったが、文書で報告し意見をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時だけでなく電話による連絡も多い。施設長が白石町医療介護連携協議会に属し、様々な方との交流や意見交換を行うことが出来ている。町内のグループホーム協議会、地域医療推進会議、他地域との利用者も参加してのグループホーム交流会に関しての会議出席もある。近所にて困っている方など役場への相談など支援に繋げている。	運営推進会議時だけでなく、行政の関係課へ出かけたり、電話による連絡も多い。町内のグループホーム協議会、地域医療推進会議、他地域との利用者も参加してのグループホーム交流会に関しての会議出席もある。佐賀県長寿社会課関係職員と顔なじみにもなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や職員が外部研修会に参加したり、定例会議の中で身体拘束の勉強会を行っている。現在、身体拘束は行っておらず、転倒や転落の危険性がある場合は、家族様と相談しながら環境整備等を工夫している。外に出たいという方には職員が付き添い散歩等行っている。身体拘束廃止委員会を3か月に1度定時と必要時に開催している。	全ての職員が、身体拘束がもたらす弊害について、これまでに持っていた認識や、外部研修、ホームでの勉強会で、十分に理解し、拘束のない支援につなげている。センサーの使用もない。スピーチロックによる心の拘束も無いようにと認識して実践している。玄関の施錠は昼間はなく、利用者の出入りは、職員が十分に見守っている。防犯については、駐在所とも連絡を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加の他、定例会議での勉強会を行っている。職員の言葉遣いや対応、介助方法等にも注意し虐待の防止に努めているが、自覚がないうちに職員の言動が不適切になっていることがあり、お互いに注意合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や定例会議の中で勉強会を行っているが、現在のところ活用されている入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は家族と面談し、重要事項の他、利用料、医療連携、看取り介護、入院時や退去時の対応等、内容を説明の上、署名捺印をいただいている。改定がある場合には家族会等により説明を行い、同意をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議や家族会、日頃の面会時の会話の中から意見や要望を汲み取り、管理者をはじめ職員で検討の上、改善が必要な場合は速やかに対応するように心がけている。改善後は、次回面会時などに家族に報告している。外部への意見要望先を重要事項説明書にも記載、説明している。	利用開始時に重要事項として相談窓口について説明し、ご意見箱も設置されている。家族会の存在は大きく、家族から何でも言ってもらえる信頼関係が出来上がっている。今年度はコロナ禍での面会制限がある中、万全な感染予防対策を行い予約制の面会となっているが、要望や意見があれば即座に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者(管理者)は日々の業務に従事し、毎月の定例会議にも参加している。その中で職員の意見や提案を聞いたり行事の反省を行う等して運営に反映している。	施設長は定例会議だけでなく、食事担当として日々の業務にも携わっており、職員の気持ちや考えを直に感じて運営に反映したり、職員に自分の思いを伝えて支援に活かしている。若い職員が多く子育て支援にも協力的で、時短の調整を行うなど、職員が働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(管理者)は、職員の年齢や実績、家庭の状況等に配慮し、働きやすい環境や勤務態勢作りを行っている。介護福祉士等の資格取得の支援にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量にあった外部研修に年1回以上参加させ、定例会議の中で報告したり、全職員が閲覧できるようにしている。また、定例会議の中でテーマを決めているいろいろな勉強会を行っている。町内外の医療・介護関係者の研修会にも毎回参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内でグループホーム連携協議会を設立し意見交換、情報交換を行っているが今年度は、新型コロナウイルス感染予防の関係で実施できていない。また、鹿島・嬉野・太良の連携協議会にも属し毎月勉強会や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談では、家族様に本人様の状態や入居後の生活への意向を確認している。今年度2名入居あり。入居前に本人様の状態を確認し、少しでも環境の変化等に戸惑われないように受け入れ準備を行う。入居後約1ヶ月間は本人様の生活の様子を見ながら、徐々に意向の確認や状態を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には、重度化した場合や入院された場合の対応についても説明し、家族様の不安の解消に努め、意向や要望を聴きながら本人様の入居後の生活について話し合っている。コロナ下での面会の制限等もあり、担当者から電話にてお互いの近況報告も実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の体調面や精神面で家族様に不安がある時などは、入居前に職員と一緒に受診に付き添い、主治医に入居後の留意点などを確認している。計画書にも反映し本人様や家族様の安心につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、調理、片付けなど、本人様ができる作業を一緒に行いながら、介護されるだけでなく、役割や生きがいを持って生活していただけるように心がけている。現在は水曜日に必ずおやつ作りを全利用者様で行い、皆さんでそれぞれに出来る力を発揮すると共に交流を図っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前、家族会、面会時等に、入居後も家族と職員が協力して本人様を支えていくことや家族の絆の大切さを繰り返し説明、理解していただき、一緒に行事に参加していただくなど、本人様と家族様の絆が途切れないような支援に努めている。今年度は面会禁止の措置もとられ家族様との距離ができた。日々の様子を写真に収めアルバム作りをしてご家族様に渡したり、毎月1回以上担当者からご家族様にお電話にて近況報告を行った。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始やお盆だけでなく、いつでも好きな時に自宅に外泊、外出できるように支援をしている。また、希望があれば、お墓参りや本人様の思い出の場所にドライブに出かけるなどの支援も行っている。今年度の実施は残念ながら出来ていない。今後は新型コロナ感染予防対策はもちろんだが、生活に楽しみを持って頂けるよう取り組みが出来るところからしていきたいと考えている。	これまで家族の協力を得ての夕食や盆正月の帰宅、また法事への出席等々、当たり前に来ていた事がこのコロナ禍では十分に出来るが出来ずにいる。再開できるまで、いつでも可能な電話の取り次ぎ等で関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、一人ひとりの長所や個性を引き出しながら、誰もが楽しく過ごせるように、座る場所や会話、活動内容等を工夫している。心身の状態や気分、感情の変化にも把握できるよう、随時模様替えを行うなど見守りや対応ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡退去により契約が終了した方の家族様が、家に成った柿を届けて下さったり、医療機関で会った時などにお話をしてくださったりという事が多く、顔なじみの関係として続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や定期的なアセスメントの他、日常生活の中での会話や本人様の行動などから利用者の意向、希望を把握するよう努めている。意思確認が困難な場合は、家族様に確認したり表情や行動などから推察し、定例会議(ケアカンファレンス)等で検討するようにしている。今年度、家族様にお願ひし、昔の写真を貸していただいた。本人様の障害の記録を一緒に確認させていただいている。	日々の暮らしの中で、本人との意思疎通ができる関係になるように努力している。家族や地域の方からの野菜の差し入れ時は家事活動を行い、本人との会話の中で生活歴を交えながら、思い出すきっかけを作ったり、行動の変化、つぶやきなどを心のサインとしてとらえ、利用者の真意や心情を推測している。利用者の担当制は、信頼関係をより深くしており、その情報は共有され、支援に結び付けられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネージャーからの情報の他、本人様や家族様から聞き取りを行っている。入居後も、本人様との普段の会話や、家族や親戚、知人の面会時の話などから情報を集めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、個人記録等により、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状把握に努め、定例会議(ケアカンファレンス)や申し送り等により、全職員が情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで、全職員が利用者一人ひとりの状態やケア方法等について検討し、毎月のモニタリングと定期的な評価を行っている。本人や家族とは、日頃から面会時に状態報告を行い意向の把握に努め、状態の変化がある場合はいつでも現状に即した介護計画に変更するようにしている。	プラン作成にあたり、本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。プラン設定期間は6か月毎としその間に変化があればその都度変更されている。日々の記録簿は時間帯に合わせ色を変え、誰でも一目でわかるように記されている。毎月カンファレンスの時間を持ち、ケアマネージャーと担当職員によるモニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画(ケアプラン実行表)を基に日々の生活の様子や心身の状態、ケアの実践・結果、気づき等を個人記録に記入し、情報を共有できるようにしている。それを踏まえて定期あるいは状態変化時の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の心身の状況により、家族様ではできないような外出や墓参り、外食、受診等は、普段よりも人員体制を増やすなどして柔軟に対応している。また、米寿の祝いなど特別の時には家族様にも一緒に食事を提供し施設でお祝いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や事業所の行事等に、役場の担当者、区長、老人会長、民生委員、駐在所、地区消防団や、不定期ではあるが主治医や町会議員等が参加し、利用者の安心・安全な暮らしのために情報交換や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面談では、今までのかかりつけ医を受診できる事や1階の協力医をいつでも受診できる事を説明し、受診や通院は本人や家族の希望、状況に応じて職員が代行している。また必要時は専門の医療機関を受診できるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医は同一建物の中に病院があり、いつでも受診や、相談ができる。緊急時にも即座に対応ができるので、家族の医療に対するの安心感につながっている。歯科は定期的な訪問診療での受診を支援しているが、嚥下状態も診てもらっている。また、歯科衛生士から口腔ケアの研修を受け、それを支援に活かしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員(医療連携担当)を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な受診や看護を受けられるようにしている。看護職員がいない時にも利用者の状態や変化を電話等で連絡し、常時連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、必要時はケアマネージャー等の職員が付き添い医療機関に情報提供を行う。週1回程度は本人様の状態確認や面会に赴き、ソーシャルワーカー等関係者と面談を行い、早期退院に向けての情報交換や支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応や看取り介護についての説明を行い文書で意向の確認を行っている。終末期に入り主治医より状態説明を受け、家族様が希望された場合は、主治医や看護師、職員が連携を取りながら、最期の時まで支援を行っている。家族様の気持ちの変化にも十分に注意し、適宜支援方法についての確認をさせていただいている。	入居時に重度化や終末期における指針を説明し、同意を得ている。これまでも看取り介護の事例はあり、介護に関しては、家族、主治医、看護師、職員がきめ細かい連携を取り合いながら支援している。家族の泊まりも可能で、最期まで家族との関わりができる体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政機関や消防署等が行う応急手当や心肺蘇生の講習会に、毎年数名の職員が参加し、他の職員に対し伝達研修を行っている。緊急時や救急車が到達する前の対応等についても、勉強会などで繰り返し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練(1回は夜間想定)を行い、消防署、地区消防団、地域住民等の協力もあり、利用者と共に消火、通報、避難訓練、避難経路の確認等を行っていたが、今年度は事業所だけで開催を行った。近隣住民とは避難場所の確保や炊き出し等の協力体制もできている。	消防計画に基づき、昼夜の火災想定避難訓練を年2回行っている。例年消防署、消防団、近隣の住民、防災器関係業者の協力を得ての避難訓練であるが、今年度はコロナ禍で事業所独自の訓練を利用者とともに行った。消防団には、運営推進会議に出席をお願いして、地域の防災体制を含めての話を聞くこともある。地震、水害、台風などの自然災害時の対応マニュアルも備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会議の中で、プライバシーや接遇マナー等の勉強会を行い、言葉かけや対応に気を付けているが、不適切な言動がある時などはお互いに注意し合うようにしている。また、入居者の個人情報の取り扱いにも注意している。	その人らしい尊厳のある姿を大切にすることを支援の基盤にしている。利用者一人ひとりの尊厳や人格、これまでの人生で得たものを尊重し支援している。研修会で学んだ接遇についての知識を支援の場に活かしており、さりげない言葉かけや対応に配慮し、その方に合った言葉かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表示や伝達ができる方は本人の話を十分傾聴し、あまり表出されない方や表出困難な方は、その表情や言動から推察し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりが体調や精神状態、本人のペースに合わせて食事や休憩などが取れるようにしている。現在朝食を少し遅くにとられる利用者様もいる。外出希望の方には散歩やおやつのお買い物、ドライブなどの対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えは基本的に家族様にさせていただいている。着替えはできる方は自分で決めて行われ、自己決定が困難な方は職員が考えて行っている。行事や外出の時などは、場面にあわせたおしゃれを考慮して洋服を選ぶなど支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には職員が栄養面を考えてメニューを決めているが、利用者に決めてもらうこともある。できる方には野菜の下ごしらえをしてもらう。後片付けなどは毎回4～5名の方に手伝っていただき、職員も一緒に会話や介助をしながら片付けを行っている。毎月の行事食や誕生日食などでは本人様の希望の物を取り入れるなどしている。現在新型コロナウイルス感染予防の関係でご入居者様と職員が一緒にテーブルでの食事はできていないが、なるべく今までのスタイルを崩さないようアクリル板の設置等を行い、一緒に時間に食事ができるように努めている。	新型コロナウイルス感染防止対策として、アクリル板を設置しての食卓である。配膳された食事は、色彩も豊かで、使用食器にもこだわりが見える。食事は、利用者の一番の楽しみもあり、台所での調理の様子やまな板の音、調理の匂いはその楽しみを一層増している。野菜はいただき物が多く、購入することが少ない。利用者は、野菜をそろえたり、ゴボウをそいだり、盛り付けを手伝ったり、食器を拭いたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考え、食事形態も一人ひとりの嚥下状態などを考慮して提供している。毎食の食事量を表に記入し一日の摂取量を把握、月1回は体重測定を行っている。必要時は主治医や訪問歯科に相談し支援方法を検討している。また、言語聴覚士を職員に配置し嚥下状態の確認を定期的に行う事が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて歯みがきやうがい等口腔ケアの支援を行い、口腔内の清潔や誤嚥性肺炎の防止に努めている。嚥下状態の悪化や義歯の調整など、必要時は家族様と相談しながら訪問歯科の診療を受けている。現在週2回の定期清掃を受けている方が4名いる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えのない方も、ノートに記入したその日の排泄状況を見ながら、トイレ誘導やパットの確認などを行っている。利用者の言動や様子から推察することもある。排泄の連絡等が大声にならないように注意合っている。中には入居時にはリハビリパンツ着用だった方も、声掛けにより布パンツとパットでの対応が出来るようになってきている。重度の方もトイレへ二人介助で誘導している。	記録表や日々の観察などから、一人ひとりの排泄パターンや習慣が把握されており、昼夜とも利用者全員トイレでの排泄支援を行っている。傾合いを見計らったトイレ誘導で、自立を意識した支援が行われている。時間毎の排泄支援でおむつ使用から、布製パンツで対応できるようになり、排泄の自立に向けた支援の結果も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表により一人ひとりの排便のパターンを把握するようにしている。野菜を多く取り入れた献立や、お茶などの水分補給、体操等により便秘の予防に取り組んでいるが、主治医の指示がある方は下剤を服用されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中はいつでも入浴できるようにしている。意思表示できる方は一人ひとりの希望に合わせて、できない方は心身の状況に合わせて入浴の介助を行っている。拒否のある方には言葉かけや対応を工夫している。また、拒否された際には無理はせず翌日に入浴をしてもらうなど臨機応変に対応している。	毎日お湯の用意はできており、最低でも週3回の入浴で、入浴を毎日希望する方にはそれに応じている。入浴を嫌がる方には、無理強いはせず利用者の気持ちに合わせて声掛けをしながら誘導している。利用者の状況によっては、二人の職員で支援している。脱衣場や浴室にはエアコンで適度な室温を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し生活リズムを整えるように支援しているが、一人ひとりの心身の状態やペースで午睡をしたり、リビングのソファでいつでも休息できるように配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより全職員が入居者の薬の内容を把握できるようにしている。服薬時は状態に合わせて見守りや介助を行っている。状態の変化に留意し、定例会議で検討したり、看護師や主治医との連携を図りながら支援を行っている。安定剤等は常時使用せず、除去出来るときには除去や中断している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や聞き取りなどから本人様の好きなこと、楽しみ、嗜好品等を把握し、日々の生活に取り入れている。掃除や食事の手伝い等、できることはできるだけ参加していただき、役割を持って生活できるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望が多い方には職員が付き添って散歩やおやつのお買い物、ドライブなどに出かけている。希望のない方も、月に数回は気分転換にドライブや外食、おやつを食べに行くなどしている。普段行けない場所にも、家族様の協力や職員を増やすなどして対応し、花見やバス旅行等を行っている。 コロナ禍で外出の機会は減っているが、最近では鹿島まで桜の花見に出かけた。	年間行事計画が作成され、季節に合わせてドライブなど家族の協力を得て遠出の外出支援が行われ、利用者の楽しみとなっていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため外出は控え計画通りの実現はできていない。天候に合わせてホーム周辺を散歩したり、近くの公園に出かけているが、利用者は施設内で過ごすことが多くなり、職員のアイデアで家族の協力を得て、昔の写真をご家族様に持参していただき、利用者それぞれの歴史を「自分史」と題し、壁面に張り、それを見ながら利用者の和みのひとときとなっている	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様や家族様が希望される方は、財布にお小遣い程度を持たれており、職員と一緒に衣類やおやつや化粧品などを買いに行かれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはいつでもできるようにしている。場所もリビングから少し離れた所に設置し、会話の内容が他に聞こえないように配慮している。遠方の家族様から手紙や贈り物が届いた時などは、返事を書くための支援を行っている。正月には年賀状も。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下、壁面など、毎月季節感や生活感を感じられるような飾り付けを行っている。行事や家族様と一緒に撮影した写真も多く掲示し、居心地良く安心して過ごせるように工夫している。台所、浴室、トイレ等は衛生面や安全面に留意し整理整頓を心掛けている。今年は新型コロナウイルス感染予防の影響でご家族様との面会も少なくなったことから全家族様の顔写真をリビングのよく見えるところに貼りいつでも眺められるようにした。また、昔の写真をご家族様に持参していただき、お一人ずつの歴史(生涯)をまとめたものを壁面に貼った。	自然の光が差し込み、リビングは明るい室内で、ほとんどの利用者がここで過ごす時間が多い。テーブルには新型コロナウイルス感染防止対策として、アクリル板が設置され万全な感染対策がとられている。壁面や天井など利用し、行事の時に撮った写真が数多く飾られ、また利用者や家族、地域の人が毎年手作りされたお雛様やさげもんなどの飾り付けを行い季節感あふれるホールとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中にある畳の間で掲示物を見学したり、リビングと離れた窓際に置いた椅子に腰掛けて1人で外を眺めたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスを持ち込んだり、家族と一緒に写真、自分が作った作品を飾られたりしている。新型コロナウイルス感染予防のため、自室の荷物を片付けし、いつでも拭き掃除が出来るように最小限度の物とし、今までより少ない飾りとなっている。また、安全面を考慮し、家族様と相談の上、通常のベッドではなく介護用のベットをレンタルしてもらい使用して休まれる方もある。	居室は利用者に合わせてベッドが準備され、定期的に寝具交換が行われ清潔な環境が整っている。馴染みの家具や衣類、手作りの飾りなどで、利用者が落ち着き安心して過ごせる場所となっている。また職員の心配りで、家族の面会時には利用者との写真を撮り笑顔あふれる写真が貼られている。コロナ禍で室内の掃除や消毒も職員で行い、万全な感染対策がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレの場所が分からなくなる方がおられるので、居室の入口に名前を付けたり、トイレの表示を見やすくするなどの工夫をしている。居室の入り口にはその方の写真を掲示するなどしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない